

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500072		
法人名	株式会社 友愛会		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	福岡県宮若市宮田191-6		
自己評価作成日	平成26年1月29日	評価結果確定日	平成26年2月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほぼ毎日家族が面会に来られたり、一緒に外出されるなど、よく家族が支援してくださる。それに応えられるように家族たちと交流を持ち、家族など外から来やすいGHであるようにしていきたい。  
利用者から「長生きしてよかった」「病院よりGHIに帰って皆と一緒にいたい」など、GHでの生活が利用者にとって喜びであるよう、日頃から利用者一人一人にとっての望みがなんであるかを確認し、実践していきたい。

設立1年目のグループホーム友愛は、市役所や消防署に近い住宅地の一角にあり、近隣にある系列のデイサービスや有料老人ホームの利用者の入居が多く、入居者同士や家族との馴染みの関係が続いている。全職員で理念を毎朝唱和しているが、共に唱和する入居者もあり、職員は笑顔で理念の実践に努めている。要介護度が重く車椅子利用者が半数を占めているが、排泄の自立は人権や尊厳に関わると、車椅子の入居者に立位保持の練習や声かけを行っている。経験豊かな職員も多く、入居者と家族の「最後までここで過ごしたい」に応えたいと「重度化及び看取りおける対応の指針」が整備されている。これまでに急変した入居者あり、今後は早い段階から重度化や終末期の支援を検討する予定である。運営推進会議や地域との交流で、地域に密着したサービスの提供が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム友愛**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で唱和し、全員で共有している。ミーティングなどで様々な話し合いをし、実践につなげている。	「今日も1日感謝のところで、時を守り、場を清め、礼を正し、笑顔で人様のために努めます」の理念をリビングに掲げ、運営者と職員は毎朝唱和している。共に唱和する入居者もあり、職員は笑顔で理念の実践に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえて、ホーム理念の再考をお願いします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、事業所の行事に招待するなど、交流がある。ボランティアの方々にも来ていただいています。	近隣に系列のデイサービスや有料老人ホームが開所しているため、自治会には未加入だが、自治会や老人会の行事案内がある。盆踊りの訪問では、入居者の歓迎ぶりに、地域の方達にも交流を喜んでもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症の人の理解や支援の方法などの話をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で前2カ月間の状況を報告し、意見をいただいている。朝礼やミーティングでその内容を報告し、向上に努めています。	実施要項が整備され、自治会長、民生委員、老人会長、消防署、行政担当課職員、複数の家族の参加で、2か月毎に開催されている。会議では、防災マップや水害時の避難場所が紹介されている。12月の会議は同時に餅つきして、消防署よりお手伝いがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者や消防署と連絡をとり、運営推進会議などを通して協力関係を築いています。	運営推進会議には市担当者、消防署担当者の参加があり、運営推進会議の開催日について助言があるなど、日頃から連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修機会を設け、職員が正しく理解出来るようにし、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	月1回の職員会議で具体的事例について話し合い、入居者と職員がなれ合いの関係にならないように、職員同士で注意している。玄関、事務室、リビングがオープン構造で、外出傾向のある入居者には見守りで対応している。時には職員がついて行き一緒に散歩し、身体拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修機会を設け、虐待がないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修機会を設けています。現状までに制度が必要な利用者はいませんでした。	管理者は制度について理解しているが、パンフレット等の整備がなく、入居時に制度について説明をしていない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について分かりやすいパンフレット等を整備し、職員からも制度活用の説明や紹介が出来るように研修されることを期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、利用者や家族たちに疑問などないか尋ねている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時など、出来る限り利用者や家族と話し合う機会をつくっている。運営推進会議などでも話し合い、運営に反映させている。	日頃から家族の意見を聞く雰囲気づくりを心掛け、要望があった入居者の呼び名で、全職員が声かけをしている。家族の訪問時に、リハビリパンツから布パンツの購入を相談したりしている。3月には開設1周年行事を計画しており、その折に家族懇談を設けたいと思っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ミーティングを行い、意見など話し合う機会を設けている。日頃から提案など聞き、運営に反映させている。	定例会には施設長が参加しており、職員の意見が反映されやすい。歩行訓練用の歩行器、足マッサージ器、足元センサーと点灯器、ハンドベルを購入し、サービス向上を図っている。職員の要望以上に大きなクリスマスのツリーが購入され、入居者や近隣住民の話題となった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も出来る限り、毎日の朝礼やミーティングに参加し状況を把握し、環境の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては性別や年齢の制限はない。 職員はそれぞれの特技を活かして勤務している。出来る限り希望休もとれるようにして、自己実現にも配慮している。	ハローワークや職員の紹介で募集し、採用している。これまで離職者はない。雇用契約書、服務規程・就業規則等が整備され、定期健康診断が実施されている。職員専用の休憩室は、ロッカーやテーブル・椅子が整備されている。資格取得への支援があり、研修参加等は勤務調整や、出張扱いなどで支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼やミーティングなど日頃から人権を尊重する旨の話は行っている。	高齢者虐待防止に関するマニュアルを整備している。日常生活の中で入居者の言葉や態度の反応から、人権を大切にしている行為や支援について話し合う機会を設けている。職員は、認知症の支援のあり方を、初心に返って考えるよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修をしている。 外部の研修にも受けるよう勧めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GHみやわか勉強会や交流会に参加し、お互いにサービスの質を向上させていくようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始の段階で、本人から要望などを聞くようにし、本人が安心して過せるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始の段階で、家族からも要望などを聞くようにし、家族も安心して過せるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用する前に、面接・見学をしていただき、他のサービス利用も含め、説明・対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々利用者に寄り添い、本人が出来ることを探すようにしている。本人が出来ることはしていただき支えあう関係を築いている。また、生活の知恵など利用者から教えていただくこともある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る範囲で通院や外出支援など家族の協力を得ながら共に支えあう関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人など来所者が多くこられる。手紙も多い。 笑顔で送り迎えし、再び来やすいような雰囲気づくりもしている。	同じ宗派の方や家族とのつながりがあり、訪問や交流、行事の案内がある。年始のお参りや節分の豆まきに同行し、参加を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えやレクレーションの声掛けなどをして、孤立しないようにしている。 干し柿作りなど利用者同士が協力しあっていただけるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したあとも、本人宛の郵便物があり、家族と連絡をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が何を求め、何を望まれているか、出来る限り把握に努めている。 困難な場合でも日頃の言動に気をつけて把握するようにしている。	入居時に把握した本人や家族の希望や要望、家族構成、生活歴、職歴、病歴、趣味や馴染みの場所、嗜好、苦手な食べ物等がアセスメントシートに記載され、全職員で情報を共有している。職員を担当制にして、さらなる思いや意向に把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話し合いなどの中から把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り先入観を持たないようにし、注意深く観察し把握するよう努めている。 職員同士、連携をとり変化を見逃さないようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護や毎月のミーティングでの意見を基に本人や家族と話し合い、本人の現状に合った計画を作成している。	3ヶ月毎に介護計画を見直しているが、変化があればその都度職員や家族と話し合い、計画を見直している。職員は担当した入居者の居室の整備等に責任を持ちながら、日々のケア状況をモニタリングし、介護計画作成担当者と意見交換している。	介護計画のケア内容を具体的に記載していただくことで、職員間のケアが統一でき、モニタリングも容易になり、次の介護計画にもつながることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどを記録し、職員で情報を共有しながら実践をしているが、介護計画の見直しに活かすまでには至っていない。 今後、活かせるようにしていく。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り本人や家族の希望などを尊重し対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の益踊りにきてもらうなど、豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、かかりつけ医の説明をし、納得される病院にかかっている。病状によっては、複数の病院かかれる方もいる。	定期的に訪問診療を受け、その折にバイタルや心身の状況を伝えている。また、定期的な訪問歯科もあり、入れ歯の調整や歯石取など口腔ケアを受けている。入居者の状況に応じて専門医の受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出勤時に状況を伝え、相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2週間に1回往診を受け、情報交換、相談している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から終末期のことをはなすようにしている。事業所でできることと、できないことを説明している。	「重度化及び看取りのおける対応に係る指針」が整備されている。これまでに急変した入居者あり、本人と家族の確認をとりながら、主治医、訪問看護師との連携を経験している。今後は、入居者との信頼関係を築き、早い段階から重度化や終末期をどう過ごしたいのかを話し合い、支援のあり方を検討する予定である。	意思確認書の整備や、主治医、訪問看護との話し合いと共にとどこまで支援できるか見極めつつ、職員研修を充実されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応などミーティングなどで確認を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の研修や火災訓練を行っている。運営推進会議で災害についての話もしている。	年2回消防署との連携で、避難訓練や消火器を使った消火訓練を実施している。ハザードマップで避難先を確認している。AEDが設置され、取り扱いを研修しているが、今後も研修を続ける予定である。缶詰とラーメンが備蓄されているが、充分ではないと考えている。	風水害や地震を想定して、3日分の飲料水・レトルト食品等を備蓄し、入居者の連絡先・投薬控え等、緊急持ち出しの書類など、備蓄台帳に記載して整備されることを期待しています。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から本人の人格を尊重し声掛けを行っている。	入居者の人格を尊重したさりげないケアを心がけ、穏やかな声かけや対応している。呼称については、本人や家族の意向を反映した声かけをしている。居室に入る時は声かけやノックを実践し、プライバシーに配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声掛けし、本人の思いを尋ねたり、自己決定できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り1人1人の希望に沿って生活できるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみなどが出来るように支援している。 定期的に床屋さんがこられるので、本人にどの程度カットするか尋ねるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや台拭き、お絞り作りなど利用者ができる範囲でしてもらっている。	一週間分の献立を白板に書き出し、職員が買い出しと調理を担当している。買い出しには入居者も同伴することもある。畑があり、世話は職員中心だが、収穫は入居者も一緒に楽しんでいる。テーブル拭きを手伝う入居者もいる。毎日昼食介助に来られる家族もいて、違和感なく一緒に、食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分が確保できるよう支援している。水分をあまり摂ろうとされない方は横に座って促したり、夜間も水分がとれるように支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや誘導して、出来る限り毎食後、口腔ケアをしてもらうようにしている。毎週、訪問歯科にきていただき、口腔ケアなどしてもらっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄出来るように支援している。リハビリパンツから布パンツになった方もいる。	排泄の自立は入居者の尊厳に繋がると、車椅子利用の入居者も昼間はトイレを利用できるように、立位保持の練習や声かけを行っている。車椅子専用トイレは広く、汚物処理用の設備も整っている。夜間安眠のためオムツを使用したり、バルブカテーテルを留置している入居者以外は、昼間はトイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から運動するよう支援している。日頃から水分補給を十分にするよう支援し、食事に繊維質の食材を取り入れるようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り本人の希望で入浴できるようにしている。	日曜日をのぞき、毎日入浴できる準備をしている。「きついから今日は入浴はしない」と入浴を嫌がる場合は、無理強いせず、週3回は入浴されるように支援している。入居者の要望に応じて、入浴日やぬる湯、長風呂等を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて、出来る限り夜にゆっくり眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用など理解するようにしている。日頃から症状の変化に気を付けている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来る範囲で役割をもってもらい、喜びのある日々が過ごせるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の希望に沿って外に出かけられるように支援している。 本人の昔からの知人と新年会に出かけられたこともある。	季節毎に外出が計画されている。若松区の「かんぼ」には全員で出かけ、地域の花火や鯉のぼり見物などを楽しんでいる。穏やかな天気の日には、同事業所のデイサービスや川原まで、車椅子の入居者も一緒に散歩に出掛けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じてお金を所持させている。 外出時など使われている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を持たれている方もいる。 年賀状を出された方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓などから自然の光が入るようになっている。 本人たちにとって居心地よく生活できるようにしている。	玄関、事務室、食堂兼居間が見渡せるオープン構造になっている。天井が高く広々とした開放的な共用空間には、空気清浄器が設置され、室温も調整されている。厨房から美味しそうな香りが漂い、入居者のほとんどは終日リビングで、会話やテレビを見たりして、お気に入りの場所で過ごされている。近隣の住宅や山々が眺められ、壁には福笑いの貼り絵や生花が飾られ季節感がある。2か所あるトイレは利用しやすい。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの他にソファを用意しており、思い思いの場所で過せるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れたものなどを使われ、本人が居心地良く過せるようにしている。	居室にはそれぞれ違う花の絵と表札がある。宗教関連の祭壇がある居室もあり、筆筒やソファなど自宅同様の部屋づくりをしている。自分らしい暮らしを継続し、お花やお供えがあげられ、日々手を合わせてお参りしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアバリアフリーで車椅子でも自由に移動できる。廊下には手すりがあり歩行を支援している。		